平成３０年度　輪島市立鳳至小学校　　中期 学力向上プラン

プラン名　　目を見て、言葉のバトンをパス

１　現状・課題（Ｒリサーチ）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 現在の姿 | 科学的なデータ（分析・原因） |
| 授　業 | 相手や目的に沿って自分の考えを適切に表現できない。 | **全国学力学習状況調査**【H２８国語B１三】・話し手の意図を捉えながら自分に必要な情報を得たり、自分の意見と比べながら話の展開に沿って話したりする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　４５.0%原因： **全国学力学習状況調査**【H２４算数B２（２）】・示された情報を用いて、指定された高さにすることができるかどうかを判断し、その理由を言葉や数を用いて表現する。　中型のとび箱が65cmや80cmになることを求めているが、そこから適切な理由を導き出すことができない。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ３０.８％原因：根拠をもとに　　　　　　　　　　**意識調査**　話す人の方を見て話を聞いている。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　50％原因：授業の中で、話し合いの場を設定しているが児童にとって必要感のあるものになっていない。 |
| 基　盤 | 自分の考えを根拠や理由をもとに適切に表現できない。 | チャレンジ短作文・根拠や理由を明確にして自分の考えを書くことができる。　　　　　　　　　　　　　５８％原因：根拠や理由をより明確に書くことができるような題材の精選、また、例文を提示して、根拠はどこから引用するかを確認してから書かせることで、根拠は書くことができるようになってきた。しかし、理由が根拠とうまくつながらない、理由にも根拠が入り交じるなどの課題が見られる。 |

２　目標（Ｇゴール）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 目指す姿 | 科学的なデータ（目標） |
| 授　業 | 相手にわかりやすく説明したり、友達の考えや意見に対してわけを尋ねたり、質問したりするなど、進んで友達に関わろうとする児童を70％にする。 | **全国学力学習状況調査**【H２８国語B１三】と類似の問題・話し手の意図を捉えながら自分に必要な情報を得たり、自分の意見と比べながら話の展開に沿って話したりする。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　60.0%**全国学力学習状況調査**【H２４算数B２（２）】と類似の問題・示された情報を用いて、指定された高さにすることができるかどうかを判断し、その理由を言葉や数を用いて表現する。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　60｡0％**意識調査**　友達と話し合うことのよさを児童が感じている　　　　　　　　　　　　　　７０％話し合う目的を明確にして話し合いの場を設定している　　　　　　　　　　８０％ |
| 基盤 | 根拠や理由を明確にして、自分の考えを表現できる児童を７０％にする。 | **児童の姿**（チャレンジ短作文）根拠や理由を明確にして自分の考えを書くことができる。　　　　　　　　 　７０％ |

３　仮説・具体的取組（Ｐプラン・Ａアクション）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 取組 | ポイント | 指標 |
| 授　業 | 課題意識を持たせ、継続させることで、児童が主体的に考え、友達の発言に関わりあえる授業を行うようにする。 | ・必要感のある学習課題を提示する。・目的やゴールを共有し、課題意識が継続するようにする。・児童にとって必要感のある話し合いの場面を設定する | 70%以上 |
| 基　盤 | 根拠や理由を明確にし、それをもとに考えを短作文に書かせる。 | ・根拠を引用して書くことができる題材設定を工夫する。・文の構成の仕方や根拠や理由の内容例を示す。・検証結果から出された課題に応じて推敲問題を作成し、取り組む。 | 70%以上 |

４　実行・検証と評価（Ｄドゥ・Ｃチェック）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 月 | 取組（何を，どのように） | 検証（何で，いつ，誰が） | 評価 |
| ９ | □二学期の学習のめあてを児童と確認する。□課題意識や相手意識を継続できるような指示や発問を行う。□自力解決後、自分の考えを表現する場を設定する。□根拠や理由を明確にした短作文を書かせる。 | ・2学期の授業のガイダンスを教師が行う。・授業において課題を意識させていた（発問・板書）・学習度や変容をふりかえる（ノート・適用・反応）・根拠や理由を明確に書くことができた短作文の割合 |  |
| 10 | □課題意識や相手意識を継続できるような指示や発問を行う。□自力解決後、ペアやグループなど友達同士かかわりあう場面を設定する。□根拠や理由を明確にした短作文を書かせる。 | ・授業において課題を意識させていた（発問・板書）・学習度や変容をふりかえる（ノート・適用・反応）・根拠や理由を明確に書くことができた短作文の割合 |  |
| 11 | □課題意識や相手意識を継続できるような指示や発問を行う。□自力解決後、ペアやグループなど友達同士かかわりあう場面を設定する。□根拠や理由を明確にした短作文を書かせる。 | ・授業において課題を意識させていた（発問・板書）・学習度や変容をふりかえる（ノート・適用・反応）・根拠や理由を明確に書くことができた短作文の割合 |  |
| 12 | □課題意識や相手意識を継続できるような指示や発問を行う。□自力解決後、ペアやグループなど友達同士かかわりあう場面を設定する。□根拠や理由を明確にした短作文を書かせる。 | ・授業において課題を意識させていた（発問・板書）・学習度や変容をふりかえる（ノート・適用・反応）・根拠や理由を明確に書くことができた短作文の割合 |  |